

二国間交流事業 共同研究報告書

令和6年4月30日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]
 国立病院機構宇多野病院・臨床研究部
 [職・氏名]
 医長・木下 真幸子
 [課題番号]
 JPJSBP 120217720

1. 事業名 相手国: インド (振興会対応機関: DST) との共同研究

2. 研究課題名

(和文) COVID-19 の発症リスクと予後の追跡: 人工知能による検討

(英文) Followup studies on SARS-CoV-2 recovered patients and Artificial Intelligence (AI) an approach towards COVID-19

3. 共同研究実施期間 2021年 6月 1日 ~ 2023年 5月 31日 (2年 ヶ月)【延長前】 2021年 4月 1日 ~ 2023年 3月 31日 (2年 ヶ月)

4. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

Department of Zoology, Central University of Punjab, Associate
 Professor, Balachandar Vellingiri

5. 委託費総額(返還額を除く)

本事業により執行した委託費総額		223,150 円
内訳	1年度目執行経費	- 円
	2年度目執行経費	223,150 円
	3年度目執行経費	- 円

6. 共同研究実施期間を通じた参加者数(代表者を含む)

日本側参加者等	3名
相手国側参加者等	17名

* 参加者リスト(様式 B1(1))に表示される合計数を転記してください(途中で不参加となった方も含め、全ての期間で参加した通算の参加者数となります)。

7. 派遣・受入実績

	派遣		受入
	相手国	第三国	
1年度目			()
2年度目	1		()
3年度目			()

* 派遣・受入実績(様式 B1(3))に表示される合計数を転記してください。

派遣:委託費を使用した日本側参加者等の相手国及び相手国以外への渡航実績(延べ人数)。

受入:相手国側参加者等の来日実績(延べ人数)。カッコ内は委託費で滞在費等を負担した内数。

8. 研究交流の概要・成果等

(1)研究交流概要(全期間を通じた研究交流の目的・実施状況)

各国内での研究は遂行できたが、COVID-19に伴う移動自粛や水際対策、インド側での大学内・研究所内における渡航許可や行政へのビザ申請手続き遅延等の障壁があり、予定通りの渡航はできなかった。

(2)学術的価値(本研究交流により得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

COVID-19 および COVID-19 ワクチンに伴う神経症状の発症メカニズム、発症リスク評価、予防措置、診断、治療方法について新たな知見が得られた。

(3)相手国との交流(両国の研究者が協力して学術交流することによって得られた成果)

相手国の研究代表者と密に連携を取ることで、相手国内の関連部門・関連施設とも連携することができ、新たに臨床領域と基礎領域とが共同して医学的研究を進める素地ができた。

(4)社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

COVID-19に関する最新知見を発表することができた。脳神経疾患に関し、患者を招待してのシンポジウムを行って疾患教育および患者ニーズ聴取を行った。これらの活動が相手国の新聞で報道された。

(5)若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取組、成果)

国内では若手研究者筆頭の論文を発表することができた。相手国の修士課程・博士課程研究者、医師(小児神経内科医、脳神経内科医、呼吸器科医)、理学療法士などを対象に講演と討議を行い、今後の発展に関してアドバイスをを行った。

(6)将来発展可能性(本事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

COVID-19に伴う神経症状の研究を発展させ、種々の神経疾患(主としてパーキンソン病やアルツハイマー病といった変性疾患および自己免疫性脳炎・脳症)の発症メカニズムと評価方法につき研究を発展させる。

(7)その他(上記(2)～(6)以外に得られた成果があれば記載してください)

例:大学間協定の締結、他事業への展開、受賞など

相手国の Central University of Punjab から表彰され、大学広報誌でも報道された。